



第 212 号

平成30年12月20日号

特別養護老人ホーム 作 楽 荘
〒441-8066 豊橋市王ヶ崎町字上原1番地145
TEL (0532) 48-5111・FAX (0532) 48-5112



伊藤民謡会の民謡ショー 作楽荘デイサービスにて 11月29日

目 次

- 2018年回顧 今年の出来事から3点……………2
(福一誠福祉社会理事長 滝川 一 亮)
- 10大ニュース……………3
- 2018年(福一誠福祉社会)10大ニュース……………4
機関誌「作楽」編集部
- 給食サービス グリーンハウスの食事提供5
- 中部開発部 アンスタントマネジャー 横山 智哉
- 作楽荘文化祭 感謝感謝で平成最後の文化祭6
- 特別養護老人ホーム作業員 介護士 菅澤 洋介
- 麗楽荘文化祭 わくわく感の文化祭……………7
- 特別養護老人ホーム麗楽荘 介護士 外村 健太
- 研修報告「介護&看護EXPO」から……………8
- 特別養護老人ホーム作業員 副社長 藤原 運也
- 障害者スポーツ しあわせ元気国体で金銀メダル9
- 特別養護老人ホーム作業員 介助員 清川 哲央
- ふるさとの城郭……………10
- シリーズ② 全国に残る江戸時代の「陣屋跡」前編……………11
- 老健ヘルウッドハイツ 生活相談員 高橋 初典
- 施設だより……………12
- * 作 楽 荘……………19
- 介護ロボットスーツ 特養介護士 前住 鈴木 孝典
- 働きおきに在宅トイレ デイ生活相談員 安藤 裕司
- * 美光ハイム……………19
- 秋の日帰り旅行 生活相談員 一番ヶ瀬智佳子
- * 倶 楽 荘……………19
- 地域との関わりを深め 生活相談員 工藤 健史
- * GHくらら……………19
- 3回戦まで勝ち進み 介護士 山本 陽子
- * 斯 楽 荘……………19
- 生き物との触れ合い 介護士 小山 竜馬
- * ヘルウッドハイツ……………19
- 日本の文化にふれ合う 老健介護士 本田美由紀
- 雨ニモマケズ! 居宅ケアマネ 大野 直子
- * DSC吉かわ……………19
- 秋を食す 看護士 居澤 克枝
- * 麗 楽 荘……………19
- 楽しかった合同運動会 特養介護士 山本 泰裕
- 手作りおやつのお好み焼き デイ介護士 横井 宏和
- * 和光ハイム……………19
- 初の親睦会 介護士 鈴木 裕佳
- * GHくらら……………19
- 輪投げ大会 来年こそは 介護士 太田久美子
- * 奇 楽 荘……………19
- コスモスの小径 介護士 入谷 訓弘
- * GHきんぐ……………19
- 秋の交通安全週間 介護士 宮下 市陽
- 施設日誌/編集後記……………19

今年の出来事から3点

(福)一誠福祉会理事長 滝川 一 亮

今年もあっという間に時が過ぎて、年の瀬が押し迫ってまいりました。

この一年の締めくくりとして、今年の当法人の出来事から、特に重大であった活動につき3つ挙げておきたいと思えます。

1 創立30周年記念式典

「30」の数に寄せた平成30年3月30日の日に、法人創立30周年記念式典を開催致しました。当日は平日にも拘わらず多数の来賓のご列席を賜り、盛況な式典となりました。中村耕三先生（東京大学整形外科学教室名誉教授）による記念講演「口コミティブシンドロームの背後にあるもの」は、

とても興味深く拝聴させて頂きました。

今後も当法人が掲げる「ノーマライゼーション」の理念の下、次の30年に向けて地域社会に貢献すべく職員一同頑張つてまいります。

2 医療報酬・介護報酬の同時改定

昨年は大幅な社会福祉法人制度改革があり、法人運営の在り方が根本から見直されて、定款の変更から組織再編に至るまで対応に追われ非常に慌ただしい一年でした。それが一段落してほっとしたのも束の間、今年は医療報酬・介護報酬の同時改定となりました。

ご存じの様に、医療報酬は通常2年毎に、また介護報酬は3年毎に見直しがされていますが、今回は6年ぶりの同時改定でした。今回の介護保険制度改定では、1947年～1949年生まれのベビーブーム世代、いわゆる「団塊の世代」が75歳以上になり、医療費・介護費が急増するとされる「2025年問題」に備えて、効率的に質の高い介護サービスを提供できる様に考えられているとの事です。医療保険と介護保険、それぞれで提供されるサービスの境界が益々不鮮明になる中、当法人の立ち位置を模索していかなければならないと考えております。

3 キャリアパス導入

昨年6月から始まった

キャリアパス導入プロジェクトも、ようやく形になってきました。今年の冬の賞与査定から導入を開始し、ブラッシュアップしていく予定です。来年度からの本格導入を大いに期待しております。

今年の日本では数年来の人材不足が特にクローズアップされ、実際に当法人でも人員不足の対応に苦慮していますが、キャリアパス導入により離職率を少しでも抑えられれば、人材確保につながればと思っております。

この一年間、本当にいろいろな事がありました。こうして無事に年の瀬を迎えられ、大変感謝いたしております。来年もまた皆様にとりまして良い一年となります様、心より祈念申し上げます。

10大ニュース

2018年
（福）一誠福祉会

10大ニュース

1 「法人創立30周年」記念事業の開催

平成30年3月30日、ホテルアソシア豊橋において開催致しました。

式典は、理事長・実行委員長挨拶から来賓祝辞、感謝状贈呈、優良職員表彰と、厳粛な中にも華やきをもつて進行了しました。

記念講演では、東大整形外科名誉教授中村先生の「ロコモ予防と転倒予防」についての絶妙な講義が好評を博しました。

そして祝宴に入ると、「豊丘高校和太鼓部」の若さ一杯の笑顔・躍動感溢れる演奏と演舞、ピアノ・クラリネットのカル

テット「ミューズ」による優雅な演奏が、祝いの会場の雰囲気在大いに盛り上げてくれました。

お陰様で、創立以来30年間の感謝を、未来へとつなぐにふさわしい記念行事になりました。



講演修了後 中村先生を囲み

2 介護報酬改定への対応

介護報酬は3年ごとに見直しがありますが、今

年度は医療報酬との同時改定の重要な時期です。

地域包括ケアシステムの推進、自立支援・重度化防止に資する質の高い介護サービスの実現、多様な人材の確保と生産性の向上、介護サービス適正化等が骨子となっており、当法人もこれを踏まえ運営を展開しました。

3 キャリアパス制度の確立と適正な運用

本年度事業計画の大きな柱として取り組み、処遇改善にも寄与しました。

幹部職員及び職員代表による月1回の内部研修の中で、給与システムの抜本的改革とともに、給与規程ほか諸規程の改定と新規の作成、職能要件書・人事考課シートなどツール類の作成、職員

の新格付けと新システムへの給与載せ替え等々、数々の改革を実行して本制度を確立しました。

今後は適正かつ有効的な運用に取り組みます。

4 後藤本部長と小島財経部長の就任

本部機能の強化・充実の目標に向けて、作楽荘荘長との兼務で、本部長として後藤英夫が4月1日より就任しました。

本人事と同時に、麗楽荘荘長の小島寛晶が財経部長を兼任します。



後藤本部長



小島財経部長

5 給食委託業者の変更

11月1日をもって、給食委託業者が(株)グリーンハウスに替わりました。

プロポーザル方式による
複数の応募業者の中から、
「おいしい」「安全」への
こだわりと、食への熱意
が決め手となりました。

「食事」はご利用者の
皆様にとって大きな楽し
みです。当法人との二人
三脚で、心のかよった給
食を目指します。

6 防犯対策の強化

防犯対策強化に向けて
豊橋市に補助金を申請し
ていましたが、1年越し
で整備許可が下り、この
3月に作楽荘・倶楽荘・
ス楽荘・ベルビューハイ
ツに防犯カメラ・モニタ
ーレコーダー・人感セン
サーが設置されました。

これを機に、防犯に対
する取り組みをさらに強
化するとともに職員の意
識も高めて、ご利用者や

地域の皆様により一層安
心して過ごして頂ける施
設づくりを心がけます。

7 RAN伴2018新 城にGHきららが参加

これまで認知症の人と
の接点がなかった地域の
方々と、認知症の人及び
そのご家族、そして医療
福祉関係者が一緒にタス
キを繋いで日本全国を縦
断し、伴に暮らすことを
実感するイベントです。

3月23日の新城市富岡
コースに参加しました。
穂積市長も参加され、総
勢200名のオレンジのTシ
ヤツを着た集団は圧巻で、
PR活動に貢献すること
ができました。

8 東三河広域連合が新 保険者としてスタート

この4月に、豊橋・新
城・豊川・蒲郡・田原の

各市と設楽町・東栄町・
豊根村の計8市町村の介
護保険者が統合し、東三
河広域連合として新たな
保険者となりました。

事務の効率化及び介護
保険事業の安定的な運営
と、それを支える財源基
盤の強化が図られます。

9 台風24号の被害を防 災強化の機会として

豊橋市や新城市を直撃
した24号台風の被害は、
当法人の各施設にも及び
ました。とくに長期にわ
たる停電への対応には苦
慮しました。一方、これ
が今後の防災を見直す良
い機会ともなりました。

10 芦沢元作楽荘荘長の 訃報

後藤本部長の追悼文
(下段)をもち、コメン
トとさせていただきます。

【追悼】
芦沢さんを偲ぶ



本部長 後藤 英夫

訃報三日後、十一月
五日の祭壇に飾られて
いた遺影は、今思い出
しても目頭が熱くなる
病室で横たわる姿では
なく、私のよく知る温
厚で笑顔の素敵な「あ
しざわ」さんでした。

特養作楽荘・美光ハ
イムの施設長、そして
評議員の重職を歴任さ
れ、一誠福祉会に多大
な尽力をされました。
常に「やるしかないん
だよ」「夢を持って仕
事をしようよ」と声を
かけながら。…行き詰
まった時はいつもこの
言葉を思い出します。
心よりご冥福をお祈
りいたします。

給食サービス

グリーンハウスのお食事提供

中部開発部アシスタントマネージャー 横山 智 教

この十一月より貴法人の給食サービスを担当させて頂いていますが、(株)グリーンハウスと申します。今般まず、作楽荘様・ベルビューハイツ様・麗

楽荘様の給食、そしてベルビューハイツ様からデイスサービスセンター吉かわ様への配送と提供を皮切りに、今年度中には、ス楽荘様・倶楽荘様・奇楽荘様のお食事提供も予定しております。

私どもグリーンハウスは、一九四七年の創業以来、創業者田沼文蔵の「社会に役立つ仕事があった」との熱い想いを込めた社は「人に喜ばれてこ

そ会社は発展する」の下、人々の「命を支える大切な事業に関わっている」ことを経営理念の根幹にしております。

貴法人の理念である「ノーマライゼーションの具現化」にならって、食事提供に対し真摯に向き合い、心のこもったサービスで利用者様や職員様すべてが笑顔になる給食を目指します。弊社にとって一番大切な使命「安全で安心できる食事」を提供するために、現場だけでなく会社全体で万全な管理体制の構築を心がけます。さらに美味しさの中にも、楽し

さ・空気・匂い・音を一緒に体感できるイベント提案で、利用者様にとって素敵な思い出作りのお手伝いができればと考えております。そして、季節に合わせた行事食の他にも、蕎麦打ちや握り寿司の実演など、目の前で作る出来立て料理をお楽しみ頂けるように今後頑張っております。

十一月三日には、運営開始から間もない状況の中で、作楽荘様と麗楽荘様開催の「文化祭」に調理・販売スタッフとして参加させて頂きました。

現在の厨房スタッフは、弊社職員と前給食業者からの転籍者、そしてオープンに合わせて入社した新規採用者から構成されており、まだまだごち

ない運営ではありますが、スタッフ一人ひとりが活気ある厨房を目指し日々の仕事に励んでいます。厨房スタッフとしてだけではなく、貴法人スタッフの一員としてともに、おもてなしの気配り心配りをもって努めていく所存でおります。



明るい作楽荘厨房スタッフ

今後は、常により良いサービスを心がけつつ、貴法人で末永い運営を目指します。皆様、何卒宜しくお願い申し上げます。

作楽荘文化祭

感謝感謝で平成最後の文化祭

特別養護老人ホーム作楽荘介護士 菅 澤 洋 介

去る11月3日の文化の日、美光ハイムと合同で毎年恒例の「作楽荘文化祭」を開催しました。

地域の皆様と触れ合う一大イベントで、行事委員会では事前に何度も何度も打ち合わせを重ね、準備を進めてきました。昨年度は行事委員長という大役を仰せつかり、大変さを嫌というほど実感していたので、その経験を少しでも生かせるように心がけ尽力しました。今回私は、バザーを担当することとなりました。役員・業者・ご家族・地域の皆様や職員から事前にバザー物品を沢山寄付

していただき、収納場所は宝の山で溢れ返っていました。本当にありがとうございました。うございました。



沢山のお宝でうれしい悲鳴

約4週間前から物品は集められ、その主な収納場所は美光ハイム4階の一角。仕分けや値札貼り作業を行ったのですが、やはり沢山の物品を仕分けするのは一苦勞でした。

スタッフ数人で喘いでいると、美光の入居者さんが自主的に集まって手伝いや差し入れをしてくれました。感謝の気持ちで一杯になりました。

皆様のご協力のお陰で、値札も前日までに付ける事ができ、いよいよ本番の日を迎えました。開始30分前には30人以上のお客様が並ばれていて、始まりと同時に皆さんがなだれ込んできました。真剣に品定めをする目つきと手つきが大変印象的で、こちらにも負けじと物品を売りさばき、ほとんど完売となって、バザーは大成功でした。

さてバザー以外の今年のイベントは、お年寄りの作品展示はじめ、文化茶会、健康相談コーナー、

ポテト・焼きそば・団子など昨年よりボリュームアップの模擬店。そして今回新登場の占いの館は、怪しい女性の占い師に人だかりの大好評でした。また、美光ハイム6階の喫茶店では、可愛いらしいウエイトレスさんが対応して、カレー・おでん・ケーキなど軽食を提供。こちらも大繁盛でした。



今回新企画の占いの館 開館前

最後の餅投げでは、参加の皆様がにっこりされて家路に着かれたとか。

麗楽荘文化祭

わくわく感の文化祭

特別養護老人ホーム麗楽荘 介護士 外 狩 健 太

十一月三日の文化の日、麗楽荘は毎年恒例の文化祭を開催しました。

今日は文化祭ということで、入所者の皆さんは朝からわくわく気分。上階のフロアーから一階の会場に下りると、五平餅の甘い香りやうどんのだしの香りが一面に広がっており、わくわく感もさらに高まりました。

まずは作品鑑賞から。入所者の皆さんが一生懸命作った作品や習字教室の作品などの展示の中には、プロ顔負けの素晴らしい作品も数多く見られます。自分の作品を見つけると、「変なのー」な

どと言いなながらも、笑顔一杯で見えて回りました。

そしてお待ちかねの舞台へと移動し、店を順番に回ります。縁日の屋台の雰囲気、気分は最高潮。うどん・カレー・たこ焼き・団子・五平餅など、皆さん口の汚れも気にせず美味しそうに召し上がっておりまして。多くの方々から「美味しいね〜」といった声が聞かれ、嬉しかったです。

そして一階中庭のテラスでは、入所者の皆さんが屋外の雰囲気それぞれに楽しみながら、うどんや団子などの味に舌鼓を打っております。

午後からは、ほうらい吹奏楽団の演奏で盛り上がりました。お年寄りが若い頃の昔懐かしい歌を演奏してくださり、歌と一緒に聞いたり歌ったり、手拍子をしたりしてとても楽しそうに過ごされました。中には感動して、涙を流して喜ばれる方もいらっしやいました。



和光玄関上からのもち投げ

続いてもち投げに参加しました。降ってくるもちやお菓子を拾おうと皆さん大奮闘。職員の心配

をよそに、あちこち急ぎ足で拾いに走り回ります。中にはあらかじめ二つ袋を準備して、もち投げに臨むつわ者の入所者さんもおり、たくさんのもちやお菓子をゲットして満足げに笑みを浮かべていました。そして、拾ったお菓子をその場で食べてしまった方も：(笑)。

私自身麗楽荘では初めての文化祭でしたが、入所者の方々と楽しい思い出が出来ました。また、なかなか来荘する事のないご家族の方々も来てくださり、入所者の皆さんのいつもとは違った笑顔を見ることも出来ました。こんな楽しい思い出がたくさん出来るように、日々の業務にしっかりと励みたいと思います。

研修報告

「介護&看護EXPO」から

特別養護老人ホーム作楽荘副荘長 藤原 運也

平成30年9月12日（14日の3日間、幕張メッセで開催された第1回「介護&看護EXPO」に参加させて頂きました。

介護&看護EXPOとは、介護・看護から医療まで、高齢者の生活を支援する製品・技術・サービスが集まる日本最大級の商談展示会です。介護エリア（介護・看護、地域包括の2分野）と医療エリア（病院運営支援、医療機器・設備、医療ITの3分野）で構成されており、5展示会が同時開催されていました。

各ブースでは製品導入に向けたデモや打ち合わせ

が行われており、展示会期間中は、業界最新セミナーや講演も多数実施されていました。



業界最先端の展示会

介護・看護エリアでは、介護サービスの生産性向上に向けた製品のブースが多く、介護ロボットやサービス種別毎のICCT化による業務の効率化を図る製品には、人気を集めていました。次世代

介護機器市場は、2020年から2025年の間に急激に成長すると予測されます。高齢化に伴うニーズの増大に加えて、新たなテクノロジーを活用しサービスの効率化につなげていこうという政府

の施策も、寄与するものと思われます。IoTやAI、センサーなどの新たな技術が大きな推進力となり、より高度な機能を搭載した機器が出回るほか、様々なシーンに対応した生活支援ロボットやコミュニケーションロボットも数多く生まれるものと見込まれています。

今回の展示会から様々な資料やパンフレット等を持ち帰ってきましたので、現在そして未来に向けて、当法人としてはど

の様なシステムを構築していくべきなのか、職員間で協議・検討していければと思っております。

平成30年度介護報酬改定では、団塊の世代が75歳以上となる2025年に向けて、国民一人ひとりが状態に応じた適切なサービスを受けられるよう、質が高く効率的な介護の提供体制の整備の推進が謳われています。

この様な状況下で流れに取り残されないためにも、今回の本展示会への参加は大変意義のあるものと実感しております。

2025年まで残りほぼ6年、どこまで整備できるのかどこまで整備できるのか、この取捨選択は間違わず判断されなければならぬと思われます。

障害者スポーツ

しあわせ元気国体で金・銀メダル

特別養護老人ホーム作楽荘 介助員 清 川 哲 央

この10月13日から15日までの3日間、私は第18回全国障害者スポーツ大会（福井しあわせ元気大会）に陸上競技で出場し、1500m走で金メダル、ソフトボール投げで銀メダルという嬉しい結果が得られました。



混戦を制して金【本人＝帽子】

この大会は国内最大の障害者スポーツ大会で、

毎年全国各地から様々な種類の障害者が参加し、国民体育大会の後に同一会場で開催されます。今年は福井市の9・98スタジアムという、昨年9月にあの桐生選手が1000m走で樹立した、日本記録の秒数にちなみ名付けられた競技場が会場でした。私は一誠福祉会で10数年介護士等の仕事に携わってきましたが、眼の病気により視覚障害となり、仕事を満足に行うことが難しくなりました。悩んだ末あんま師・鍼灸師としての再出発を決意し、現在はその資格取得のため岡崎盲学校に通って

ます。学校生活の中でこの大会の存在を知って出場したいと思い、今回初めてチャレンジしたところ夢が叶いました。

皇太子殿下ご臨席の開会式の入場行進では、大歓声に迎えられて思わず目頭が熱くなりました。



皇太子殿下からのお言葉

1500m走では、レース前独特の緊張感でスタートラインに着き、号砲とともに飛び出して無我夢中で走り切った結果、自己ベストを出すことが

できました。ソフトボール投げとの金・銀メダル受賞は、大きな達成感溢れる幸せ体験でした。また大会期間中を通して、多くの障害者の方や大会を支えてくれるボランティアの方との素晴らしい交流がありました。



メダルを胸に記念撮影

今後も夢（目標）を持ち続け、前向きに進んでいきます。この気持ちで、来年度からの一誠福祉会の業務にも生かしていきたいと思っています。

シリーズ⑳ 全国に残る江戸時代の「陣屋跡」(前編)

老健ヘルヴェーハイツ生活相談員 副主任 高橋 初典

全国に残る江戸時代の「陣屋跡」についての二回連載から、今回はその前編です。

大名と呼ばれる武士は一万石以上の石高を有する者ですが、江戸幕府によって厳しく格付けされていました。上から「国主(国持大名)」「準国主」「城主」「城主格」「無城」に分けられ、城主格以下の大名は、城に遜色のない建造物を建てても「城」を名乗ることができず、「陣屋」と称しました。一般的には、三万石以下の知行地(領地)の大名は城を持てず陣屋を構えました。しかし三河田原藩の三宅氏は、一万二千石で「田原城」を構え

ていたので、一概にそれが全てとは言えません。

旗本と呼ばれる武士は、一万石未満の石高ですが、幕府から米を支給される「蔵米取り」と、領地を持つ「知行取り」の二種類が存在しました。知行取りの旗本であっても、領地に政庁機関として陣屋を構えました。

また、幕府直轄地に陣屋を構えて代官に支配させる場合もありました。それに加え、領地を持つている大名が他の地域に「飛地」として領地を与えられ、そこに陣屋を構えるなど、陣屋にも色々な種類が存在しました。まずは、静岡市清水区にある「小島陣屋(おじ



小島陣屋の主曲輪(本丸)高石垣

まじんや)跡」です。元禄二年(1689年)、五代将軍・徳川綱吉の治世時に「若年寄」を務めていた松平信孝(滝脇松平氏)が、四千石を加増され、一万石の大名となります。その後の宝永元年(1704年)、養子で二代藩主の松平信治が、小島への転封を機に興津川の右岸、標高六十mの河岸段丘上に陣屋を構えます。以後、十一代の信敏までの約百六十年間、松平氏が治めました。この陣屋は三段の郭を

持つ城郭風の縄張りを特徴とします。それは「一二三段(ひふみだん)」と呼ばれ、姫路城や丸亀城・津山城などの縄張りを小規模にしたものだと思えば分かり易いでしょう。ほぼ全域に石垣が良好な状態で残存しており、これが「城」を名乗れないのが不思議な程です。



小島陣屋大手門付近の一二三段石垣

また、御殿の一部の書院は地元で払い下げられて国道五十二号線沿いに移され、小島町公会堂から現在は文化財資料館として使用されています。



移築された小島陣屋の御殿書院跡

次は、岐阜県高山市にある「高山陣屋跡」です。元々飛騨高山の地は、高山藩主・金森氏が治めていましたが、江戸中期の元禄五年（1692年）に出羽国上ノ山藩へ転封となり、それを機として幕府直轄地（天領）になります。

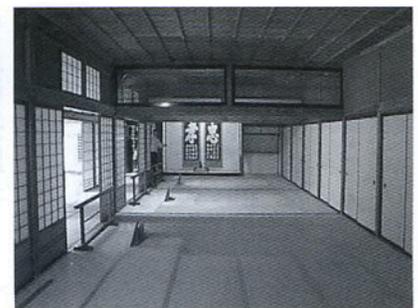
江戸幕府は、関東郡代である伊奈氏を飛騨代官として兼務させます。そして、金森氏居城の高山城を廃城にして、金森氏が所有していた下屋敷を陣屋として整備します。

高山陣屋は、現存する「天領」の陣屋としては唯一の存在で、建築物の七割程が残っています。規模も壮大で、政務を行う屋敷や大広間、巨大で長い蔵など全て回り観る事が出来ます。しかし、じっくり観察しながら拝観すると三時間近くは掛かってしまうので、時間に余裕を持って訪れるとよいでしょう。



高山陣屋の代官役宅の外観

明治維新後は高山県庁舎となつて、昭和四十四年（1969年）まで県の事務所として使用され



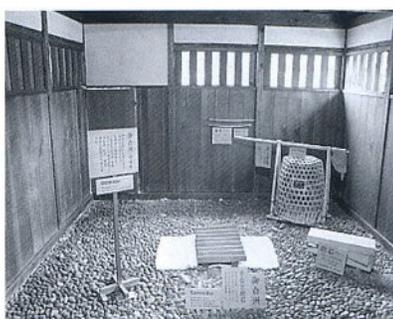
高山陣屋の広間と御殿書院御座之間

ました。要するに、陣屋がそのまま役所として使用されていたのです。その後は、岐阜県が陣屋の保存に乗り出して、平成八年（1996年）三月には修復・復元が完成し、現在に至っています。



何棟にも連なる高山陣屋の藏番長屋

数年前、当法人の職員旅行が飛騨高山のとき、元作楽荘センター長の山谷さんは亡くなられた名誉会長から、「高山陣屋だけは是非とも訪れるように」と助言されたそうです。そして、実際訪れてみて建造物のあまりの広大さに驚いた、と聞いた事があります。私もその旅行に参加していたので、話に花が咲いたのも今は懐かしい思い出です。



現存する高山陣屋の御白洲（取り調べ室）

次回も、柏原陣屋など全国に残る陣屋跡を紹介したいと思えます。

施設だより

作楽荘

○介護ロボットスーツ

特養介護士副主任 鈴木孝典

市老人福祉施設協議会の研修における「介護ロボットスーツ」の話です。

身体を動かした時に装着者の皮膚のセンサーが脳からの信号を読み取り、筋肉と一体的に関節を動かす動作支援を可能にします。このスーツは外した時により良い動きをしてもらうものだそうです。



女性でも楽にリフトアップ

入所者の立位と歩行のリハビリ訓練にとても良いと思いました。不安定な方も安定して訓練が行え、重度の身体的介護の方、特に意思疎通ができない方でも、脳からの信号で立位や歩行など動作の意思を感知して、動作支援が可能となります。

介護支援用スーツ（腰タイプ）は、時間の都合上装着できませんでしたが、装着した方の意見を聞くと、腰を支えてくれるのでスムーズに持ち上げられるメリットの反面、慣れるまではタイミンングが取りづらかったり、汗でセンサーシールがはがれたりするそうです。デメリットを解消して実用化され、業務効率が高まることを期待します。

○備えよ常にをモットーに

デイ生活相談員

副主任 安藤裕司

11月9日から15日は秋の火災予防週間。作楽荘・美光ハイムにおいても、期間中の初日に火災発生を想定した合同避難訓練を行いました。

日中の火災発生時における職員の初動確認とともに、美光入居者の方々には誘導灯を頼りに避難して頂きました。職員を要避難援助者として、車椅子での避難方法も学びました。美光入居者は全員歩行できますが、作楽荘入所者は大半が車椅子利用者。今回は一部の方対象であったため10分弱で避難は完了したものの、実際車椅子の皆さん全員

の避難を完了するにはかなり時間を要します。より迅速により安全に避難できるよう、今回の様な訓練を今後も重ねていきたいと思えます。



迅速かつ安全な避難を目指し

去る10月1日、台風24号が東海地方等を直撃して作楽荘でも大きな被害を受けました。中でも長時間の停電で施設機能がマヒし、大変な思いをしました。この時の体験も、今後には生かしていきたいと思っています。

美光ハイム

○秋の日帰り旅行

生活相談員 一番ヶ瀬智佳子

紅葉も鮮やかさを増す霜降の10月23日、美光総勢11名で7月にリニューアルオープンしたばかりの「ミツカンミュージアム」へ出掛けました。古くから続く運河沿いの黒堀、その美観地区の一角に博物館があります。

まずは江戸時代の酢作りから現在の醸造の様子を見学。次に運河を望みつつ、共に歩んできた半田の人々と情景が映し出された写真や音声を体感。さらに江戸時代に内航海運で活躍した全長20mの弁才船の甲板上で、半田から江戸までお酢を運ぶ航海を大型映像で体験。

そして最後に、四季を通じて食と命のつながりを知る情緒的映像を鑑賞。



江戸時代にタイムスリップ

酢作りの歴史や食文化の魅力に接し、見て触って楽しく学べる体験型博物館を存分に堪能でき、皆さん満面の笑顔。お土産タイムでは、数量限定のプレミアム酢や創業のお酢を購入されました。黄金色に輝くススキの景色に秋を感じ、日々の生活から離れて道中ぶらりとするのも素敵ですね。

倶楽荘

○地域との関わりを深め

生活相談員主任 工藤健史

平成12年の社会福祉法改正から、そして平成17年の介護保険法改正からはさらに、「地域福祉」など「地域：」という言葉をよく耳にするようになりました。地域密着型特養の当施設としては残念ながら、まだまだ地域との関わりは薄いと言わざるを得ません。

それでも倶楽荘では、地域の習字教室の先生や生徒さんと交流会をもつて1年ほど経ち、今ではその先生に毎月お越しいただき習字教室を開いています。参加者も毎回10数名と盛況で、ずいぶん上達された方もいます。

11月からは、エントランスに市民館のPATCHワーククラブの作品を展示させていただいております。可愛らしい作品に心が和みます。また最近では、津田校区市民館でのお祭りに参加させていただきました。地域の方々のクラブ活動の発表の場や交流の場にもなっています。



津田校区市民館の楽しいお祭りにも参加しました

地域と徐々に関わりを深めていき、将来的には当施設としてより地域の方々のお役に立ちたいと思っております。

GHくらら

○3回戦まで勝ち進み

介護士 山本陽子

10月18日、豊川市にあるゆうあいの里で「輪投げ大会」が行われ、入居者さん3名と職員2人が参加しました。

お手製の看板とうちわを持って車に乗り込むと、「どこに行くの?」「輪投げなんて、昔行ったお祭り以来だわ」と車中はとても賑やかでした。初参加に緊張しながらも、初めてとは思えない入居者さんと職員の見事な連投により、くららチームは順調に点数を重ねました。そして、楽しい時間はあっという間に過ぎてお昼休憩。持参したお弁当を皆で食べました。

後半戦に入り更に会場

が盛り上がる中で、3回戦までは勝ち進みましたが、残念ながら諸事情もあつてそこで敗退してしまいました。「負けちゃったね。楽しかったけど勝ちたいのならもつと練習しなくちゃね」と入居者さん。来年に向けて、段ボールで練習用の輪投げセットを作りました。それからの日々、リハビリを兼ねて輪投げゲームを楽しんでいます。



負けても楽しかったですよ

斯楽荘

○生き物との触れ合い

介護士 小山竜馬

9月と10月の2か月にわたつて計4回、のんほいパークときぎよぎよランドを散策しました。

のんほいパークでは、のんびりと草を食むアミメキリンを眺めながら、「私もあんな風に呑気に毎日を暮らしたかったわ」などとしみじみ呟く入居者さんたちと一緒に、ゆつくり動物を見て回りました。ぎよぎよランドでは、豊川に生息する生物が沢山姿を見せてくれ、身近なフナやキスから多くの都道府県で絶滅危惧種に指定されているカワバタモロコまで、幅広い種類が見学できました。

ぎよぎよランドではザ

リガニに触れる事ができるので、子供時分には平気で掴めたのに、大人になると恐怖心からか躊躇する方を多く見かけます。自分も怖さが勝り、ハサミを振り上げて威嚇するザリガニには触る事が出来ませんでした。



「いなりん」囲んで記念写真

楽しい気動物を見学される姿を見て、短時間であっても外出の機会を増やしたいと思いました。

ベルビューハイツ

○日本の文化にふれ合う

老健介護士 本田 美由紀

11月3日の文化の日にはちなみ、3日と4日には入所者の皆さんにDVDを鑑賞してもらったり、お抹茶を点でて楽しんだりしていただきました。

DVDは、『男はつらいよ』や『忠臣蔵』などの懐かしい映画です。

『男はつらいよ』では、見覚えのある女優や男優が出演しているのを観て、「若いねえ」とか「懐かしいねえ」とか話が弾みながら、皆さんの笑顔がこぼれていました。

『忠臣蔵』では、感動のあまり涙を流しながら真剣に観ておられる方も見受けられました。



結構なお服加減です

おやつの中には、お抹茶とお菓子を提供しました。お抹茶では、茶々研修で習得した職員のお手前が発揮されます。お菓子は紅葉をかたどった和菓子でとてもきれいだと言っていました。そして、入所者の皆さんにお菓子とお抹茶をお運びすると、きちんとご挨拶もされて、礼儀正しいお作法で召し上がっていました。

こんな風に、秋の風情を楽しみながら、日本の文化にふれ合いました。

○雨ニモマケズ!

居宅ケアマネ 大野 直子

居宅介護支援事業所に異動となり、この十月で丸二年が経ちました。高齢者を支援するという意味ではそれまでの介護士と変わりませんが、仕事内容は全く異なり、当初は新入職員のごとく戸惑う事ばかりでした。

ケアマネとしての業務は多岐にわたりますが、必ず月に一度は担当している方々の自宅を訪問します。心身状況や生活状況等を確認し支援を行うのですが、抱えている課題は様々で、自分の知識と経験不足を痛感する事が多々ありました。

そんな時、助けになる

のは先輩ケアマネの存在です。困った時は皆で協力しようという雰囲気の中、週一回の会議や日々の何気ない雑談の中で気軽に相談できます。また、隣接する地域包括支援センターの職員からも様々な助言を受ける事ができるといふ心強い環境の下、右往左往しながらも少しずつですが前進できているように思います。

改定を重ねる介護保険制度等、常に医療や福祉の分野での勉強の必要性を感じています。主役である利用者の方々が希望する自立した生活が送れるよう、黒子としての役割が果たせるよう、自身の人間力を高めていきたいと思えます。「雨ニモマケズ」の精神で!

★DSC吉かわ

○秋を食す

看護師 居澤 克枝

前号の記事にありますように、吉田方保育園の皆さんと一緒に収穫した薩摩芋。園児のお顔より大きいものから手のひらサイズや親指サイズまで、様々な大きさや形のお芋が吉かわの畑からたくさん獲れたのです。そこで、十一月五日からの三日間は炭火の焼き芋をおやつとして振舞いました。

下準備は利用者の皆さんにお手伝いしてもらいました。洗ったお芋を新聞紙に包みそれを水に浸します。更にアルミホイルで丹念に包んで積み上げます。炭に火を起こし、焼き網の上にお芋を並べ

て、いよいよ焼いていきます。十分程でひっくり返すこと約一時間。何ともいえないお芋の薫りが、一面に漂ってきました。あつつ熱の皮をむくのに悪戦苦闘しながらも頬張るそのお顔は愛らしく、「おかわり！」の声もたくさん届きました。



いくつでも食べれるね♪

ホットプレートとは一味も二味も違う、炭火ホックホクの焼き芋を召し上がっていただきました。

★麗楽荘

○楽しかった合同運動会

特養介護士 山本 泰裕

十月七日の日曜日午後から、麗楽荘の合同運動会をデイサービスのフロアで行いました。

司会者による運動会の開会宣言と紅白両チームの入所者代表による選手宣誓に始まり、ラジオ体操・大玉送り・玉入れ、そして入所者と職員によるパン食い競走へと進行していききました。

中でも大玉送りは、あちこちちに玉が転がったりしながらも、白熱した試合で大盛り上がり。その時の楽しそうな表情や歓声を今でも思い出します。玉入れでは、入所者の皆さんが職員の持つ

箱の中に玉を入れるのですが、入った玉を出そうとする人までいました。パン食い競走では、パンを指し体を伸ばしたり曲げたりするコミカルな動作が面白かったです。



赤も白も頑張れ！大玉送り

入所者の皆さんの普段とはまるで違う表情を、運動会の笑顔でいっぱい見せてくれました。

これから、このような楽しい行事にたくさん入所者の皆さんが参加できるように色々企画していきたいと思えます。

○手作りおやつのお好み焼き

デイ介護士副主任 横井宏和

十月の二十二日から二十七日まで、デイサービス麗楽荘ではおやつの間にお好み焼きを提供させて頂きました。

食材の自然薯は、利用者さんより分けて頂いてデイサービスのプランターで育てたものです。

それを磨りおろし、刻んだキャベツや他の具材



さて、美味しく焼けるかな？

と一緒に好み焼きの粉に混ぜて、ホットプレートで焼きました。利用者のMさんやNさんも職員と一緒に上手に焼いて下さいました。デイルームには香ばしい良い匂いが漂い、もうレクリエーションどころではありませんでした。

そのお味ですが、利用者の皆さんや食いしん坊の職員から、とても美味しいと大好評。私も少し味見をさせて頂きました。どこか一味違う絶品でした。やはり、丹精込めて育てた自然薯が決め手だったと思います。店で買ったものとは違い、自分たちで料理したおやつは格別でした。また機会を設けて皆さんで楽しみたいと思います。

和光ハイム

○初の親睦会

介護士 鈴木裕佳

10月24日に和光ハイムで親睦会を開きました。

和光では初の親睦会ということもあり、職員間で色々話し合いをした結果、今回はお寿司を注文して、当施設の食堂で楽しく歓談しながら食べて頂くことになりました。お寿司は、入居者の皆さん全員に喜んでもらえるように、一人ひとりに好きなネタを聞いたうえで注文しました。

当日となつて、先ずはお寿司を受け取りに行き、それぞれ皆さんが選んだお寿司をお皿の上にのせました。すると、「あなたのお皿は白い物ばかり

だねー」「あなたのは赤い物ばかりだねー」などと、笑いながらとても楽しそうにお寿司を楽しまれています。それぞれのテーブルでこのような会話があり、皆さんの笑顔が多く見られました。

懇親会も終わりに近づき職員が挨拶をすると、「美味しかったです。ご馳走さまでした。とても楽しかったのでまた今度もやって下さい」という声があがりました。

開始までの準備はバタバタして大変でしたが、当日の親睦会では入居者の方々の笑顔とうれしい言葉を一杯頂き、やってよかったなと思えました。来年は、もっと喜んでもらえるような親睦会を考えたいと思います。

GHうらら

○輪投げ大会 来年こそは

介護士 太田 久美子

10月18日、豊川市にある「ゆうあいの里」で輪投げ大会が行われ、グループホームうららも入居者3名、職員2名の計5名で参加しました。

会場は総勢150名程が集まっていて、熱気に満ち溢れていました。普段は感じることの無い空気の中なので、緊張されているかと思いましたが、そんな職員の心配をよそに皆さん大会を楽しまれていました。

私達のGHうららチームは1回戦で敗退。その後行われた敗者復活戦でも敗退してしまいました。それでも皆さん悔しがる

様子もまったく無く、残りの時間は他施設の応援をして過ごしました。



しっかり狙いを定めて…

来年はもっと良い成績が残せるように、事前には練習を重ねるなどして、万全の態勢で臨みたいと思いました。

また、各施設ごとに旗やプラカードを作成してきており、会場はとても華やかでした。そんな部門のコンテストも併せ行われているので、来年はそちらでも賞を取れるように頑張りたいです。

奇楽荘

○コスモスの小径

介護士 入谷 訓弘

奇楽荘では、今年の秋も新城市の富岡にある「コスモスの小径」まで散策に出かけました。当日の数日前には台風が来ていたので、「コスモスが倒れてなければいいね」と入居者さんたちと話しながら、コスモス畑へと向かいました。

到着すると、そんな心配をよそにたくさんのコスモスが咲き乱れており、見るや否や、「うわあ、満開ですごくきれい」と皆さん大喜び。触ってみたりにおいを匂いでみたりしながら、コスモスにぐざり付けた。

コスモス畑を一周した

後は出店で五平餅を注文して、皆さん一緒にコスモス見ながらの花見餅。ある入居者の方は、「きれいな花を見ながら食べるから、すごくおいしく感じる」と嬉しそうにおっしゃっていました。皆さんにとって、この日のきれいなコスモスは、五平餅を美味しくするスパイスに感じたようです。

これからも季節の行事を取り入れながら、入居者の皆さんと職員と一緒に楽しみたいです。



秋のコスモスきれいだね



○秋の交通安全週間

介護士 宮下市陽

認知症ケアから始める街づくりをコンセプトに、10月下旬からの秋の交通安全週間、当施設から一番近い信号交差点で「早めのライト点灯」を促す啓発活動をしました。

「皆で頑張るぞー」と勢いよく飛び出したまではよかったです、やはり非日常的な試みとあって緊張気味な表情で、「ちょっと恥ずかしいなあ」の声も。それでも全員オレンジ色のTシャツを着ての活動とあって一体感も高まり、活動開始通りすがりの車から「ご苦勞様です」と声を掛け

られたり、手を振ってもらったりした事が自信へと繋がり、いつしか自作の交通安全カードを高々と掲げられておりました。



地域の啓発活動への参画

このような活動への参画は、入居者さんの生活の質を高めます。「今できる事」を皆さんと一緒にしていることの素晴らしさを痛感しつつ、今後とも是非、このような地域を支える活動を継続していきたいと思えます。

本部 日誌

平成30年11月

- 6日 木の花会職員旅行D班(7日)
- 12日 介護就職面接会(榎山部長・鈴木副社長於豊橋合同庁舎)
- 13日 木の花会職員旅行E班(14日)
- 15日 新卒者採用選考(於作楽荘)
- 17日 職場見学(於作楽荘)
- 19日 職場見学(於斯楽荘)
- 21日 第4回理事會(於麗楽荘)
- 28日 本部會議(於斯楽荘)
- 30日 後援會豊橋・新城合同理事會・懇親會(於ホテルアソシア)
- 30日 職場見学(於麗楽荘)
- 30日 新卒者合同企業説明會(榎山部長・夏目事務長於豊橋市役所)

作楽荘日誌

平成30年11月

- 1日 生花クラブ(講師 林先生)
- 3日 作楽荘・美光ハイム文化祭
- 5日 音楽ボランティア(歌の輪會)
- 6日 豊橋老人福祉施設協議會研修(於豊橋上下水道局)
- 6日 木の花会職員旅行D班(7日)
- 7日 ガラス絵クラブ(講師 朽名先生)
- 7日 中野地区民生委員定例会(包括於中野地区市民館)
- 9日 作楽荘・美光合同防災訓練
- 10日 福岡地区民生委員定例会(包括於中野地区市民館)
- 12日 寿司祭り
- 12日 給食會議
- 13日 木の花会職員旅行E班(14日)
- 14日 インフルエンザ予防接種
- 15日 ガラス絵クラブ(講師 朽名先生)
- 16日 絵手紙教室(講師 神藤先生)
- 17日 キャリアパス研修(於斯楽荘)
- 18日 誕生日會
- 20日 荘内研修茶々俱樂部
- 20日 職種別會議(主任 ケアマネ(渡邊 於大清水センター)
- 20日 音楽ボランティア(歌の輪會)

21日 ビアノ演奏會(全野先生)

22日 第4回理事會(於麗楽荘)

23日 本部會議(於斯楽荘)

27日 職種別會議(社会福祉士)(白井主任・大塚副主任於豊橋市役所)

28日 後援會豊橋・新城合同理事會・懇親會(於ホテルアソシア)

29日 連絡會議

美光ハイム日誌

平成30年11月

- 1日 茶道クラブ(講師 西口先生)
- 3日 作楽荘・美光ハイム文化祭
- 9日 カラオケクラブ(講師 白川先生)
- 12日 アフタヌーンコンサート
- 14日 インフルエンザ予防接種
- 18日 書道クラブ(講師 酒井先生)
- 20日 健康体操クラブ(講師 田中先生)
- 29日 カラオケクラブ(講師 白川先生)

倶楽荘日誌

平成30年11月

- 5日 豊老協平成30年度全体會(小野 萩原 於豊橋市上下水道局)
- 6日 消防訓練(G日合同)
- 7日 インフルエンザ予防接種
- 12日 秋の職員健康診断(21日)
- 13日 運営推進會議
- 20日 荘内研修茶々俱樂部
- 21日 倶楽荘連絡會議
- 28日 習字教室(G日合同)

GHの日誌

平成30年11月

- 5日 豊老協平成30年度全体會(浅井 於豊橋市上下水道局)
- 6日 消防訓練(特養合同)
- 7日 インフルエンザ予防接種
- 12日 秋の職員健康診断(21日)
- 13日 運営推進會議
- 20日 荘内研修茶々俱樂部
- 20日 倶楽荘連絡會議

新楽荘日誌

- 27日 外部評価
- 28日 習字教室(特養合同)
- 平成30年11月
- 3日 作業荘文化祭外出
- 5日 豊老協平成30年度全体会(佐原 森 於 豊橋市上下水道局)
- 7日 Aユニットミーティング
- インフルエンザ予防接種
- 9日 Bユニット誕生日会
- 12日 新楽荘連絡会議
- 16日 石巻中学校体験学習(於 新楽荘)
- 16日 運営推進会議(於 新楽荘)
- 20日 介護記録システム説明会(於 作業荘)
- 27日 介護記録システム説明会(於 麗葉荘)
- 28日 とよかわ吹奏楽団演奏会
- 29日 おたまじゃくしの会
- 作業荘連絡会議

ベルヴューハイッツ日誌

- 平成30年11月
- 2日 文化祭(於 3日)
- 3日 小さなピアノリストたちのサロンコンサート
- 6日 木の花会職員旅行D班(於 7日)
- 8日 職種別会議(堀内主任 於 あいトピア)
- ケアメ研修会(堀内主任 於 B.V.H)
- 13日 木の花会職員旅行E班(於 14日)
- 15日 三河ブロック事務長部会(於 刈谷産業振興センター)
- 音楽療法(おたまじゃくしの会)
- 17日 キャリアパス研修(於 新楽荘)
- ジャズバンド演奏(MT.SKY JAZZBAND)
- 19日 温泉フェスタ(於 24日)
- 20日 ピアノ演奏(夏目音楽教室)
- 22日 職種別会議(保健師)(山崎 羽田 於 みのり)
- 23日 第4回理事会(於 麗葉荘)
- 24日 本部会議(於 新楽荘)
- フラダンス(あなたにもアロハを)
- 25日 生け花3D(講師 佐藤先生)
- 27日 誕生日会
- 職種別会議(社会福祉士)(菅沼 於 豊橋市役所)
- 音楽療法(へボの会)

DISC吉かわ日誌

- 28日 後援会豊橋・新城合同理事会・懇親会(於 ホテルアソシア)
- 30日 広域会議(堀内主任 於 あいトピア)
- 平成30年11月
- 2日 消防設備点検(常友保守センター)
- 5日 フラダンス慰問(ハローフラオカレイナニ 焼き芋(於 7日))
- 6日 絵手紙教室(講師 鈴木先生他2名)
- 8日 前芝中学校福祉体験学習(於 9日)
- 13日 吉田方中学校職場体験学習(於 16日)
- 14日 傾聴ボランティア
- 20日 連絡会議(滝川主任 於 B.V.H)
- 22日 習字教室(講師 佐藤先生)
- 24日 全体ミーティング
- 平成30年11月
- 2日 生け花クラブ
- 3日 文化祭
- 6日 木の花会職員旅行D班(於 7日)
- 労働災害防止講習会(伊藤 高 於 豊橋地方合同庁舎)
- 8日 介護職員口腔ケア研修(国本 於 愛知県南科医師会館)
- 褥瘡対策研修会(柳川主任・岩崎 於 豊橋市市民病院)
- 13日 荘内研修茶々倶楽部
- 木の花会職員旅行E班(於 14日)
- 15日 重度者のケア研修(瀧川 真 於 日本福祉大学名古屋キャンパス)
- 16日 学名古屋キャンパス
- 入所判定会議
- 21日 書道クラブ
- 28日 リスクマネジメント研修(今泉 真 副主任 於 日本福祉大学)
- 29日 老人ホーム三河部施設長会議(小島 莊 長 於 刈谷市産業振興センター)

麗楽荘日誌

- 平成30年11月
- 2日 生け花クラブ
- 3日 文化祭
- 6日 木の花会職員旅行D班(於 7日)
- 労働災害防止講習会(伊藤 高 於 豊橋地方合同庁舎)
- 8日 介護職員口腔ケア研修(国本 於 愛知県南科医師会館)
- 褥瘡対策研修会(柳川主任・岩崎 於 豊橋市市民病院)
- 13日 荘内研修茶々倶楽部
- 木の花会職員旅行E班(於 14日)
- 15日 重度者のケア研修(瀧川 真 於 日本福祉大学名古屋キャンパス)
- 16日 学名古屋キャンパス
- 入所判定会議
- 21日 書道クラブ
- 28日 リスクマネジメント研修(今泉 真 副主任 於 日本福祉大学)
- 29日 老人ホーム三河部施設長会議(小島 莊 長 於 刈谷市産業振興センター)

和光ハイム日誌

- 平成30年11月
- 1日 体操教室
- 2日 和光会連絡会・和の会
- 3日 文化祭

GHIYU日誌

- 平成30年11月
- 3日 文化祭
- 12日 文化展(於 静巖堂)
- 13日 荘内研修茶々倶楽部
- 16日 連絡会議
- 20日 誕生日会
- 24日 運営推進会議
- 25日 のんほいロケット
- 27日 はぐるまの会
- 28日 認知症カフェ
- 29日 焼き芋会
- 平成30年11月
- 3日 文化祭(於 麗葉荘)
- バンドミー荘内販売
- 10日 運営推進会議
- 13日 荘内研修茶々倶楽部
- 16日 レインボーハウス荘内販売
- 18日 新築歌舞伎鑑賞(於 新城文化会館)
- 22日 誕生日会
- 23日 紅葉狩り

奇楽荘日誌

- 平成30年11月
- 3日 文化祭(於 麗葉荘)
- バンドミー荘内販売
- 10日 運営推進会議
- 13日 荘内研修茶々倶楽部
- 16日 レインボーハウス荘内販売
- 18日 新築歌舞伎鑑賞(於 新城文化会館)
- 22日 誕生日会
- 23日 紅葉狩り

GHIYU日誌

- 平成30年11月
- 3日 文化祭(於 麗葉荘)
- 13日 荘内研修茶々倶楽部
- 16日 新築音楽祭
- 17日 連絡会議
- 18日 運営推進会議
- 18日 新築歌舞伎
- 22日 五葉まつり
- 22日 俺ん家カフェ
- 23日 東照宮の秋季大祭
- 25日 のんほいロケット
- 宮路山もみじ祭り

編集後記

「平成最後の…」のフレーズが飛び交うこの年末ですが、来年5月からは新天皇即位により新元号がスタートします。

「平成」は、高齢者福祉にとつての大きな転換期でした。元年より「ゴールドプラン」と称して10年間、多くの施設ができました。12年、「介護保険制度」導入により応能負担から応益負担へと移行し、多くの民間業者が参入して介護サービスが多様化しました。しかしそれ以上に少子高齢化は深刻化し、結局は回り回って今の「地域」施策に着地しています。

一誠福祉会の道程も「平成」と共に歩む30年でした。来年はまた、新たな元号と共に心機一転リセットします。平成に感謝し、新元号に希望を込めて。

(T・A)